

(一財)日本建設情報総合センター研究助成事業

防災 DX に向けた災害教訓のマルチレイヤー化に関する研究

報告書

2023 年 12 月

研究関係者紹介

研究代表者

いそうちちかこ
磯打千 雅子

現 職：香川大学地域強靱化研究センター（博士・工学）

主な著書：地区防災計画学の基礎と実践（分担執筆），弘文堂，2022

共同研究者

おおばはるお
大場 晴夫

現 職：香川大学創造工学部（工学士）

主な賞歴：2018年 公益社団法人発明協会 全国発明表彰 朝日新聞社賞

目次

1. はじめに	1
1.1 研究背景.....	1
1.2 目的.....	2
2. 災害証言記録の取得	4
2.1 対象災害.....	4
2.1.1 昭和 49・51 年小豆島土砂災害.....	4
2.1.2 平成 16 年台風 16 号による高潮災害.....	5
2.2 災害証言の取得.....	6
2.3 災害証言の属性整理.....	8
2.3.1 災害教訓の特性整理.....	8
2.3.2 災害教訓の属性取得.....	11
3. 市民学習，防災・危機管理研修に資する教材作成	14
3.1 デザイン.....	14
3.2 ウェブサイトの構築と教材の作成.....	15
3.3 利活用の試行.....	17
3.3.1 小学生向け防災教育での教材利用.....	17
3.3.2 行政職員向け研修教材の作成.....	18
4. 今後の課題	20

1. はじめに

1.1 研究背景

災害教訓の伝承は全国各地で様々な形態で実施されている。香川県小豆島町では、約 50 年前に発生した大規模土砂災害の教訓が石碑に刻まれており（図 1），先人による後世へ伝える努力がなされているものの，研究代表者らが実施した先行研究では住民による認知度は高くなく，課題がある¹⁾（図 2）。また，わが国全体を鑑みても，毎年全国各地で災害が多発しているにも関わらず，その教訓は被災地に留まり，災害が発生するたびに同様の課題が繰り返されている²⁾。



図 1 小豆島における過去の災害を伝える石碑

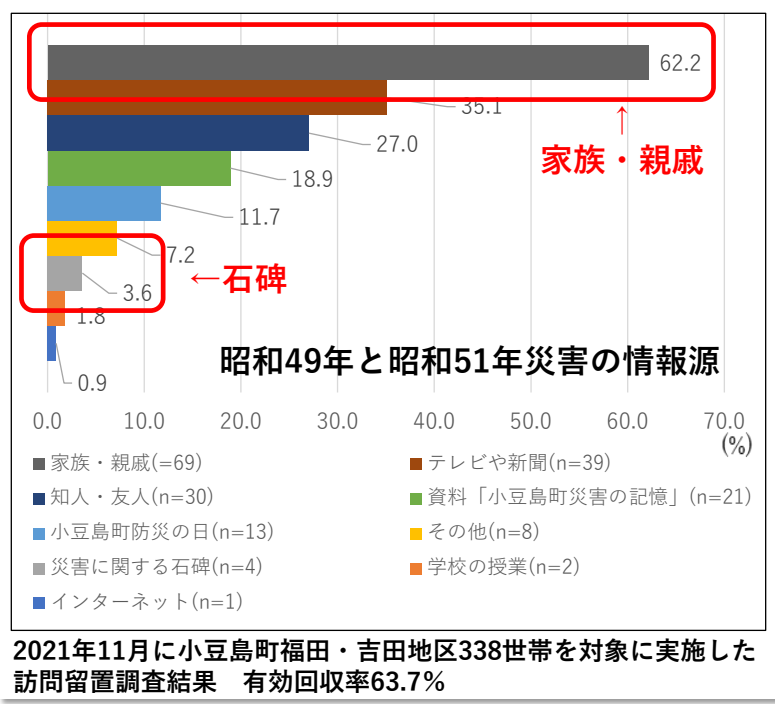


図 2 小豆島町福田・吉田地区における既往災害の情報源¹⁾

一方、社会全体における情報共有のあり方においては、昨今様々な場面でDX化が進展しており、人と人のコミュニケーションのあり様にも変化が著しい³⁾(図3)。このような状況においては、災害教訓の伝承のあり方も可変性が求められるが、伝承形態には将来社会を見越した長期的な展望が必要である。

さらに、空間情報や予測情報等様々な防災情報のDX化が進展する一方で、いわゆる語り部による伝承については動画公開サイト等で動画の公開がなされているが、今後益々増加が想定される情報に対し、DX化による目的に応じた伝承情報の検索・抽出の向上に資する加工が必要である。研究代表者らが実施した先行調査では、家族や知人と口頭で過去の災害について話している住民は防災行動に積極的であることが明らかとなっており¹⁾、ナラティブデータを中心としたDX化は効果的な災害教訓の伝承において非常に意義が高いといえる。

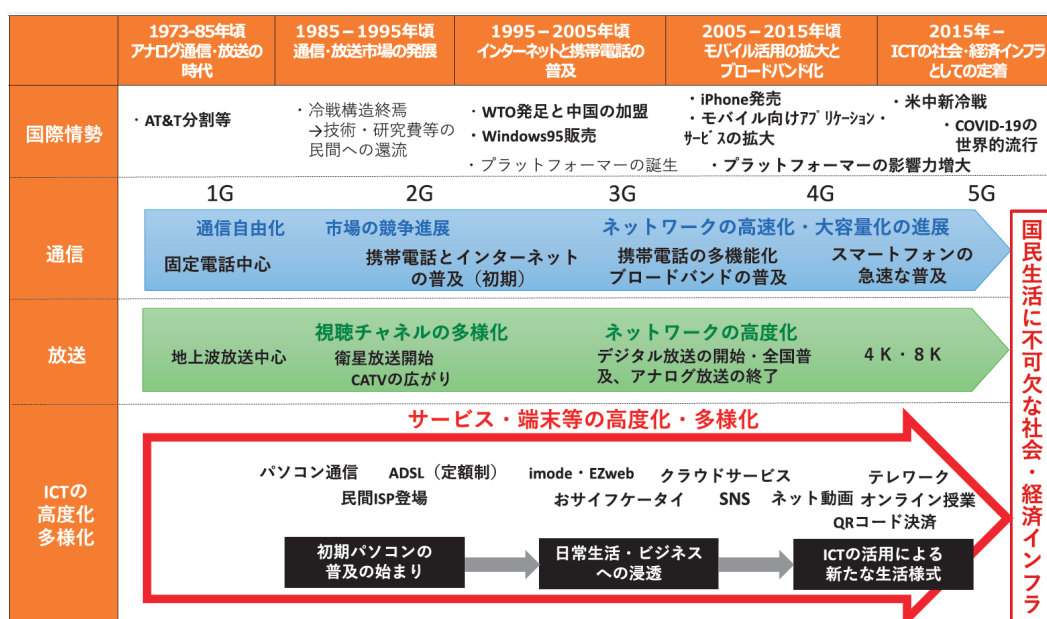


図3 DX化に伴うコミュニケーションの在り方の変化³⁾

1.2 目的

本研究は、近年頻発する災害を受けて増え続ける災害教訓の伝承を効率的・効果的に行えるように、災害証言記録といったオーラルデータをマルチレイヤー化することで、被災当事者による貴重な証言記録を利活用しやすい形で後世に伝え、残していくことを目的としている。

社会全体でDX化が進む一方で、災害教訓の伝承といったローカルな情報をどうDX化に馴染ませるのが課題であり、本研究はまさにここをターゲットとしている。さらに、DX化は日進月歩であり、日々新しいツールが開発されることから、将来を見据えた災害教訓の属性データ整理を行う必要がある。本研究では、様々なニーズに応じた市民学習に広く活用を促し、また異動や新規採用等の土地勘のない四国地方整備局職員の若手研修で活用を想定している。

<参考文献>

- 1)田中健太郎・磯打千雅子：災害伝承が与える防災行動への影響～小豆島町を対象として～，土木学会四国支部第28回技術研究発表会，2022.5.
- 2)日本災害情報学会平成30年西日本豪雨調査団：平成30年西日本豪雨災害に関する調査報告書，2019.9.
- 3)総務省：デジタル社会における経済安全保障に関する調査研究，2022

2. 災害証言記録の取得

2.1 対象災害

本研究で対象とする災害は、香川県で過去に発生した大規模災害として、昭和 49・51 年小豆島土砂災害、平成 16 年台風 16 号による高潮災害とした。

両災害の概要を下記に掲載する。

2.1.1 昭和 49・51 年小豆島土砂災害

小豆島町では、過去に 2 か年に渡っての大規模な土砂災害を経験している。昭和 49 年災害では、旧内海町で死者 29 人、重軽傷者 41 人、多数の家屋が全半壊、床上・床下浸水が発生した。さらに、2 年後の昭和 51 年災害では、6 日間で年間降水量をも上回る 1,400 ミリの豪雨となり、各所に土石流災害、ため池や河川の氾濫などが発生した、旧内海町と旧池田町で合わせて死者 35 人、重軽傷者 82 人と、過去に例を見ない大災害となった。

災害の概要を表 1 に示す。

表 1 昭和 49・51 年小豆島土砂災害の概要¹⁾

小豆島 49 災・51 災被害概要			
	昭和 49 年 被害	昭和 51 年 被害	
死者	29 人	35 人	
24 時間雨量	365 mm (内海町 太陽の丘)	819 mm (内海町)	
最大 時間雨量	40 mm～70 mm	95 mm (殿川ダム：池田)	
総雨量		1,400 mm (四方指：池田町) (6 日間)	
建物 被害	全壊	57 棟	127 棟
	半壊	71 棟	137 棟
	床上 浸水	1,081 棟	1,543 棟
	床下 浸水	855 棟	1,191 棟



図 4 昭和 49・51 年小豆島土砂災害の概要¹⁾

2.1.2 平成 16 年台風 16 号による高潮災害

平成 16 年は、10 もの台風が日本列島に上陸した。中でも台風 16 号では、瀬戸内海沿岸地域において、それまでの最高潮位を大幅に超える高潮が発生した。

香川県では、死者 3 名、重軽傷者 6 名、床上浸水 5,877 戸、床下浸水 16,088 戸にのぼる記録的な被害となった。

この被害は、気圧の低い台風による海面の吸い上げ、1 年で最も潮位が高くなる夏の大潮、さらに台風による吹き寄せの影響が瀬戸内海の複雑な地形に重なったことが要因となった。

災害の概要を表 2 に示す。

表 2 平成 16 年台風 16 号による香川県の被害²⁾

平成 16 年台風 16 号による香川県の被害		
人的被害		死者 3 名，負傷者 6 人
潮位		実測最高潮位 2.46（高松港） （これまでの既往最高潮位 1.90）
建物被害	全壊	1 棟
	半壊	8 棟
	床上浸水	8,393 棟（高松市内 6,093）
	床下浸水	13,424 棟（高松市内 9,468）
非住家		全壊 8，半壊 8
公共施設		一部損壊 9
医療機関		一部損壊 1
文化財		一部損壊 1



図 5 平成 16 年台風 16 号による香川県の被害

2.2 災害証言の取得

昭和 49・51 年小豆島土砂災害，平成 16 年台風 16 号を対象に，被災体験に関する証言記録を取得した。

記録は，被災体験者へ半構造化インタビューを行い，動画媒体として記録した。インタビューは，①災害発生前後期（警戒避難と発災直後の行動），②復旧・復興期（生活再建，防災まちづくり）の 2 段階とした。

インタビュー対象者は，昭和 49・51 年小豆島土砂災害は小豆島町で被災体験者 2 名（小豆島町役場からの推薦），平成 16 年高潮災害は浸水エリアで被災体験者 2 名（高松市二番丁コミュニティ協議会からの推薦）を選定した。

取得した動画は，市民学習や，地方自治体職員や四国地方整備局職員の防災・危機管理研修などの多様な用途に可能なよう，1 編 10 分程度に編集した。

表 3 インタビュー対象者の概要と動画 URL

氏名	被災時の年齢	選定理由	概要と動画 URL
戸城広美	55歳	平成16年台風16号で被災	<p>商店街などで被災後に活動を実施</p>  <p>https://www.youtube.com/watch?v=GWP4uyraFo0&t=14s</p>
平尾清子	65歳	平成16年台風16号で被災	<p>住民ボランティアとして活動</p>  <p>https://www.youtube.com/watch?v=Fip6Tgfqw1E&t=111s</p>
北野昭平	19歳	昭和49年土砂災害で被災	<p>大阪に居住していたが実家が被災，帰省</p>  <p>https://www.youtube.com/watch?v=hSYmAsyC1Xg&t=2s</p>
浜口美須榮	38歳	昭和51年土砂災害で被災	<p>自宅が被災 被災後は自宅・生業の再建</p>  <p>https://www.youtube.com/watch?v=0cvXs8SINwU</p>

2.3 災害証言の属性整理

本章では、災害教訓で用いられている言語特性を把握するため、災害教訓データのテキストマイニング分析と、本研究で対象とした災害証言の属性取得について述べる。

2.3.1 災害教訓の特性整理

一般に、災害教訓は様々な媒体で保存されている。本研究では、内閣府防災担当が実施する1日前プロジェクトのウェブサイトで開催されている教訓情報を対象とした。

1日前プロジェクトとは、当該サイトで以下のように説明されている。

「災害の1日前に戻れるとしたら、あなたは何をしますか」と、地震や水害などの被害に遭われた方々に問いかけました。「タンスがあんなに簡単に倒れてくるなんて思わなかった。」というお話や、「家族と連絡が取れずとても不安だった。」というような体験談から、私たちは何かを学ぶとることができるでしょう。³⁾



図 6 内閣府1日前プロジェクトに掲載されている災害教訓³⁾

同サイトでは、災害の種類別、地域別、場面別に各種災害の教訓が掲載されている。本研究では、これらの災害のうち風水害で平成11年～令和元年を対象に、317件の教訓を抽出、テキストデータとして整理した。

整理結果を用いて、テキストマイニング分析により言語特性の把握を行った。

以下に分析結果を掲載する。

分析対象の災害教訓情報は、317件であり、総文章数は2,898行、述べ単語は27,116件であった(表4参照)。

表 4 災害教訓情報の基本特性

項目	数
体験談	317
総文章	2898
平均文章長 (文字数)	46.4
述べ単語	27,116

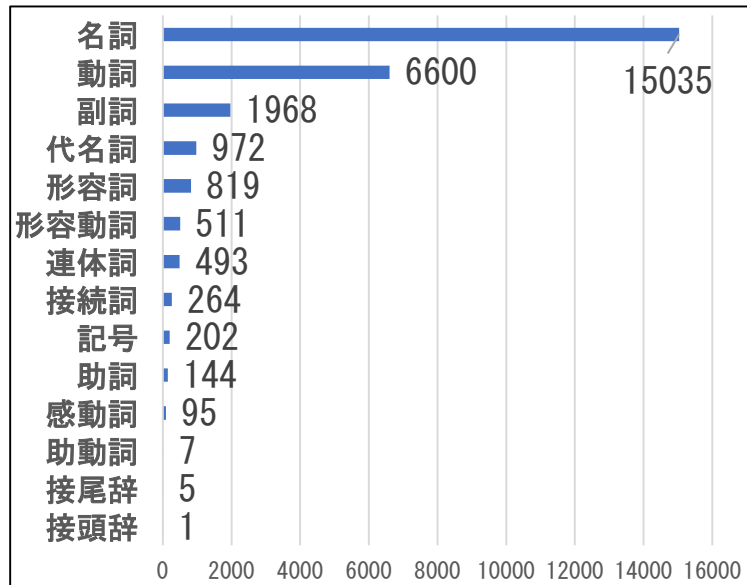


図 7 品詞別頻度グラフ

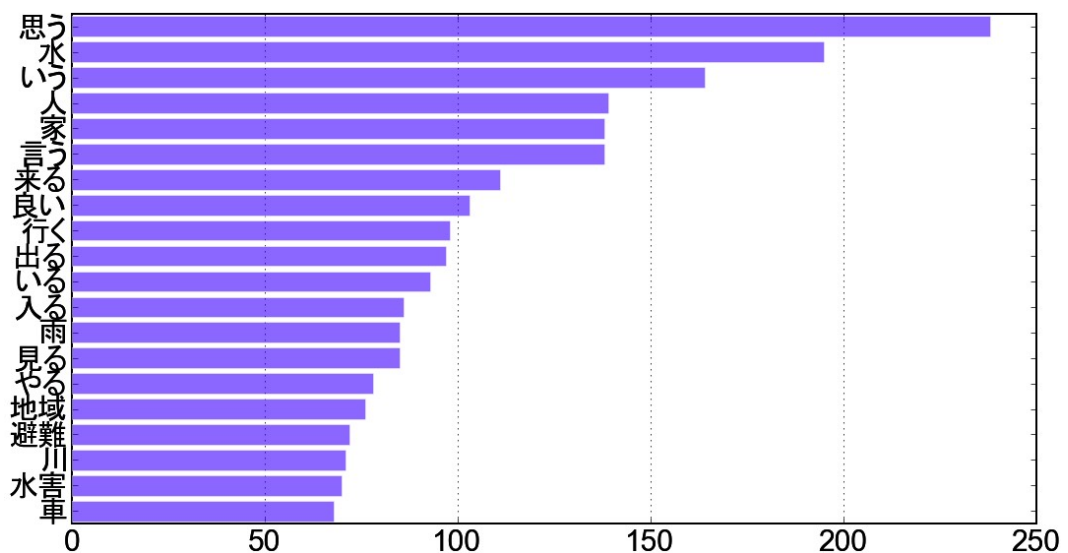
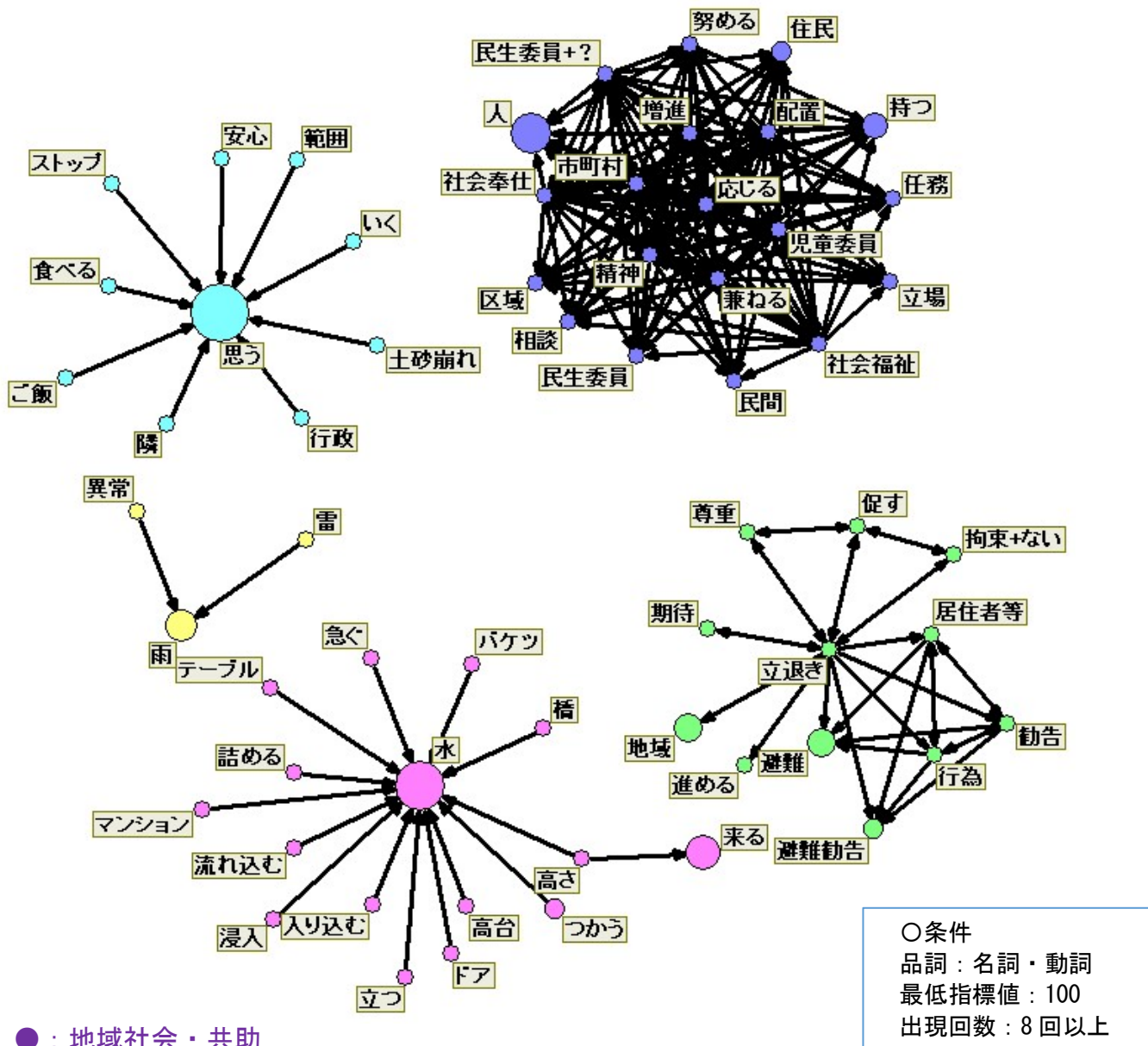


図 8 単語頻度解析

品詞別頻度グラフ，単語頻度解析結果を上記に示す。

単語頻度解析結果では，「思う」「いう」といった個人の行動に加えて，「水」「人」「家」の名詞が頻出していた。体験談からは，水害現象そのものと，人や家に関する教訓が多いことが想定される。



- ：地域社会・共助
 - ：避難
 - ：被害情報
 - ：災害現象
 - ：自身の思い・教訓
- (災害前後における)

図 9 共起関係のある単語同士のつながり

上図は、共起関係のある単語同士のつながりをネットワーク図で表したものである。

単語間の共起関係とは、単語間の結びつきの強さ、ある単語とある単語が文章中に同時に出現することを意味する。

本分析結果からは、地域社会・共助、避難、被害情報、災害現象、自身の思い・教訓（災害前後における）のまとまりが得られた。

本研究では、本分析結果から得られたまとまりを参考に記録した災害証言の属性を取得する。

2.3.2 災害教訓の属性取得

取得した記録に対して、災害教訓の伝承に資する属性情報（マルチレイヤー）の取得を行った。具体的には、被験者の証言において当時の浸水深やその場所、被災範囲などの定量化可能な証言や教訓情報を抽出する。抽出する属性は1 空間情報、2 災害情報、3 被害情報、4 避難行動、5 生業・暮らし、6 災害教訓とした。

また、属性の取得にあたっては、記録動画の発話データをもとに、タイムスタンプと属性をタグ付けさせる（図 10 参照）。



図 10 証言記録に対する属性データの位置づけ

具体的には、図 11 に作業イメージを示した。

取得した属性データは、巻末資料に掲載した。

属性データの取得対象者は、災害種別・内容を踏まえて下記の3件とした。

表 5 属性データの取得対象

氏名	災害種別・内容
吉岡忠昭・池上恵	小豆島昭和 49 年災害で被災。当時は旧内海町建設課職員として災害対応業務時従事。
浜口美須榮	昭和 51 年土砂災害で被災、当該地で生活再建
平尾静子	平成 16 年台風 16 号で被災、住民ボランティアとして活動



静かに来たような水なんですけれど、みるみるこう上がってきましたね。ちょっと今までになかったことだったのでね。慌てましたねやっぱり。



災害情報

ボート、ゴムボートでちょっと避難したり、それからおっぱして避難したり、そういうことはありましたね。



避難行動

皆さん落ち込んでたんですよ。でも亡くなった方は、車、外部から来た方だから。もう入ってズブッと入ったらもうどうしようもなかったんでしょうね。



被害情報

平成16年度の台風第16号及び23号による被害実績

高校生では、平成16年に2家の人々の悲劇による災害が発生しました。

平成16年台風第16号（平成16年8月30日）

人的被害 死者 2人

住宅被害 床上浸水 4,010戸
床下浸水 12,085戸

高潮 TP+246cm

下流部で高潮と暴風との襲撃から被害発生（高潮）（高潮風速と記録せず）

※台風16号の災害被害額は高潮浸水想定区域図を参考に算出されています。

↓ [台風16号の災害被害実績（高潮浸水想定区域図）](#) [PDF: 1.063kB]

浸水被害実績については、高潮の被害を示した図表です。

洪水・内水（雨水出水）・高潮・土砂災害・ため池各ハザードマップ

【洪水】

富良野川、本流川、新川・曹田川については、平成31年3月26日に富良野川から新川に洪水浸水想定区域図が公表されました。

また、吉田川については、令和2年5月14日に富良野川から新川に洪水浸水想定区域図が公表されました。

富良野川水系については、令和4年5月31日に富良野川から新川に洪水浸水想定区域図が公表されました。

【詳細はこちらのページをご覧ください。】

それ以外、およびこのマップのページ（90～91ページ）、内水（雨水出水）ハザードマップ（平成16年台風第23号浸水実績）、主要災害ハザードマップ、ため池ハザードマップに掲載されている河川の洪水浸水想定区域図については「見直し」となります。

富良野川、本流川、新川・曹田川の洪水浸水想定区域図については、「富良野川ハザードマップ」をご覧ください。（※吉田川、新川に追加された富良野川水系の洪水浸水想定区域図は記載していません）

富良野川ハザードマップ

富良野川、本流川、新川・曹田川の洪水浸水想定区域図は水位想定区域図について、河川が氾濫（はんらん）した場合には浸水想定区域図と水位を示したものです。

（浸水想定区域図は浸水想定区域図と水位を示したものではありません。）

（富良野川水系本流川の洪水浸水想定区域図は記載していません。）

（富良野川水系本流川（吉田川）上流約700メートルより上流側）・内流川・相川の洪水浸水想定区域図は記載していません。

新川水系（新川・曹田川・吉田川）洪水浸水想定区域図（詳細サイト）

令和2年5月14日に富良野川から新川に洪水浸水想定区域図を公表しました。それ以外、「富良野川ハザードマップ（新川・曹田川）」に記載している新川・曹田川の洪水浸水想定区域図に、吉田川の洪水浸水想定区域図が新たに追加されています。

主な風水害

年月日	被害の種類	原因	気象庁地方気象台における観測値	被害状況
昭和29年9月1日 ～14日	風水害	台風第12号	最大風速 ESE 21.3m/s 最大瞬間風速 ESE 26.1m/s 最低気圧 980.1hPa 総降水量 44.5mm 日降水量の最大 27.7mm 1時間最大 6.5mm	市北西部に家屋の浸水被害あり
昭和29年9月14日 ～20日	風水害	台風第13号 (台風14号)	最大風速 SSE 33.1m/s 最大瞬間風速 SSE 33.3m/s 最低気圧 974.6hPa 総降水量 95.5mm 日降水量の最大 49.8mm 1時間最大 15.9mm	市北西部の西部河川、横井河川に被害発生
昭和30年5月11日	風水害	高潮	【備考】 気象庁の観測により、宇布志連絡橋（富良野川と国鉄富良野線三ノ宮川が架かる）が流失した。	富良野川、横井川、長瀬川に被害発生
昭和30年9月14日	風水害	台風第13号 (第2号台風)	最大風速 NW 22.6m/s 最大瞬間風速 ENE 38.6m/s 最低気圧 980.5hPa 総降水量 161.7mm 日降水量の最大 75.7mm 1時間最大 29.2mm	市北西部に家屋の浸水被害あり
昭和30年8月8日 ～11日	風水害	台風第9号	最大風速 ESE 14.1m/s 最大瞬間風速 E 24.6m/s 最低気圧 995.6hPa 総降水量 74.9mm 日降水量の最大 35.1mm 1時間最大 14.6mm	女木島に家屋 2ヶ所
昭和30年9月24日 ～25日	風水害	台風第20号	最大風速 SW 23.2m/s 最大瞬間風速 W 33.2m/s 最低気圧 974.4hPa 総降水量 95.0mm 日降水量の最大 60.0mm 1時間最大 17.5mm	長瀬川（富良野） 2人 住家 全壊 1ヶ所 半壊 2ヶ所 下水道 1ヶ所 橋りょう流失 1ヶ所 鉄道橋脚倒壊 130本
昭和40年9月9日 ～10日	風水害	台風第23号	最大風速 NE 23.2m/s 最大瞬間風速 NE 39.5m/s 最低気圧 959.9hPa 総降水量 192.3mm 日降水量の最大 150.3mm	長瀬川 9人 住家 全壊 14ヶ所 半壊 11ヶ所 一部倒壊 157ヶ所 床上浸水 164戸

図 11 災害証言記録と属性データのタグ付けイメージ

<参考文献>

- 1) 小豆島町, 小豆島災害の記憶, 2014
- 2) 日本建築学会四国支部構造委員会, 2014
- 3) 内閣府防災担当, 一日前プロジェクト, <https://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/ichinitimae/index.html>
(2023.12.12 閲覧)

3. 市民学習，防災・危機管理研修に資する教材作成

取得した災害記録に対する属性データを災害教訓マルチレイヤーと称する。本章では，災害証言記録のナラティブデータと属性データを突合せ，ウェブブラウザで閲覧可能なようサイトを構築する。

3.1 公開用ウェブサイトのマルチレイヤーデザイン

マルチレイヤーデザインは，下記の方針とした。画面全体の構成として従来型のグリッドデザインを参考に，吹き出しデザインを配置した。本デザインにより，発話者の発言内容を聞きたくなどアフォーダンスデザインとなっている。

また，災害の種類別に色調を検討し，土砂災害，地震災害，高潮災害，洪水災害で4基調とした。

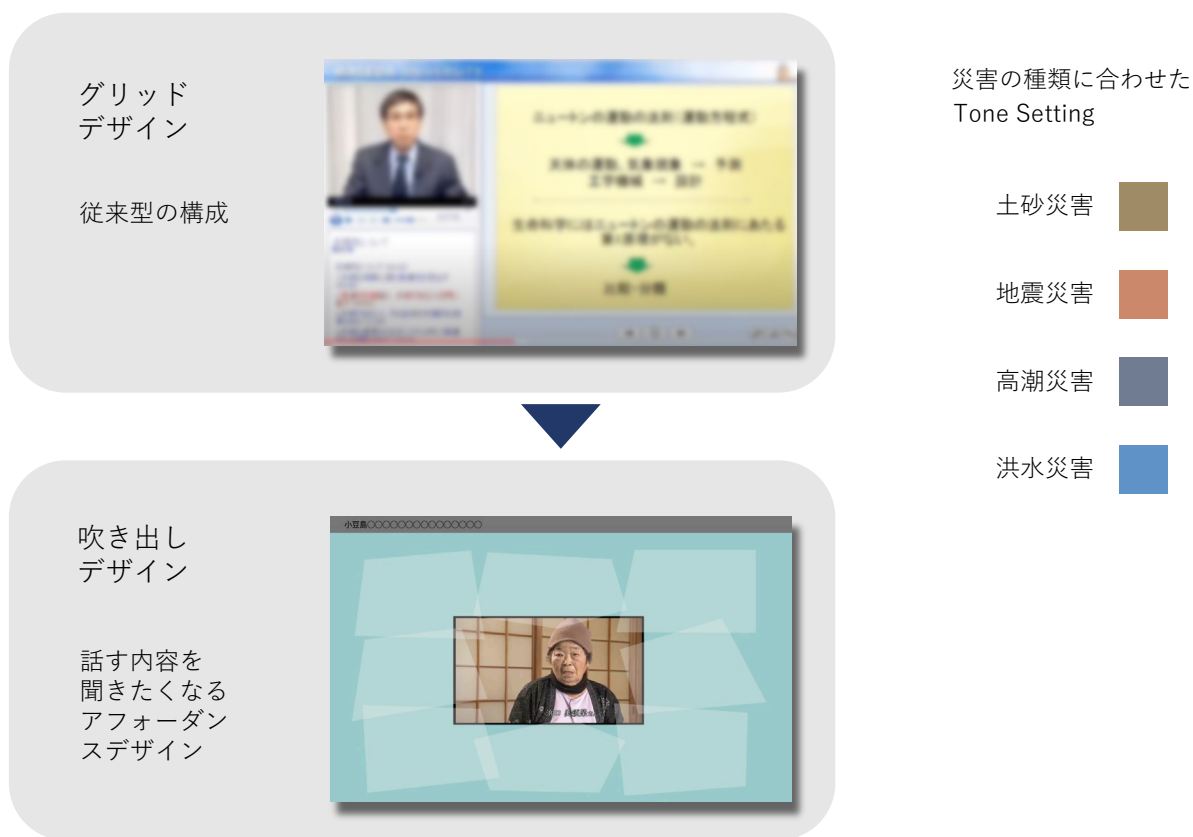


図 12 デザインコンセプト

3.2 ウェブサイトの構築と教材の作成

先に示したデザインコンセプトに基づき、市民向け教材として活用可能な閲覧サイトの画面デザインを行った。

閲覧サイトは、動画とマルチレイヤーをタイムスタンプでリンクさせ、属性情報を動画周辺にリーフ表示させるデザインとした。属性情報は、証言動画の発話内容に関連した学習情報であり、被害記録の補足情報であり、位置情報などである。閲覧者は、動画のみの再生も可能であり、学習目的に応じて必要なレイヤーリーフをタップし、発話動画または属性情報を閲覧可能である（図 13 参照）。



図 13 マルチレイヤーレイアウト

作成したマルチレイヤーサイトを以下に掲載する。

表 6 マルチレイヤーサイト

氏名	マルチレイヤーサイト
吉岡忠昭・池上恵	 <p data-bbox="1204 369 1364 526"></p> <p data-bbox="518 638 1268 672">https://www.kagawa-u.ac.jp/iecms_archives/archive/voice02.html</p>
浜口美須榮	 <p data-bbox="1204 840 1364 996"></p> <p data-bbox="518 1075 1268 1108">https://www.kagawa-u.ac.jp/iecms_archives/archive/voice01.html</p>
平尾静子	 <p data-bbox="1204 1265 1364 1422"></p> <p data-bbox="518 1512 1284 1545">https://www.kagawa-u.ac.jp/iecms_archives2/archive/voice01.html</p>

3.3 利活用の試行

本章では、当教材の利活用にあたり、試行調査と研修教材の作成を行った。

以下に実施結果を述べる。

3.3.1 小学生向け防災教育での教材利用

利用の試行は、香川大学が主催した小学校 5 年生向け防災教育公開講座にて実施した（図 14 参照）。

本講座には、高松市内の小学校 5 年生 15 名が参加し、防災リーダー養成に向けた研修を受講した。

本講座の一環として、「香川県で発生した過去の災害を知る」を目的に、平成 16 年高潮災害についてのマルチレイヤーサイトをを用いた研修を行った。研修は 2023 年 7 月 28 日（金）に 60 分間で行った。



図 14 実施した小学生向け研修講座

本講座では、まず、児童に発話動画を閲覧させ、①発話者がどのような災害を説明しているのか、②発話者は何に困ったのか、③発話者が伝えたいこと、の 3 点について黄色い付箋紙に記入させた。

次に、マルチレイヤーサイトを閲覧させ、さらに気づきを得た点について青付箋で記入させた（図 15 参照）。

図 15 講座の状況と得られた気づき

本結果からは、児童は動画を閲覧したことに加えて、マルチレイヤーサイトを閲覧することで各自の興味に応じた深める学習ができていたことが確認された。一方で、図 15 の 2 班のように、班によってはマルチレイヤーの習熟に差がみられた（新規のコメントが少なかった）。

児童の利用にあたっては、コーディネーターによる指導が必要であることが示唆された。

3.3.2 行政職員向け研修教材の作成

本研究では、様々なニーズに応じた市民学習に広く活用を促し、また異動や新規採用等の土地勘のない四国地方整備局職員の若手研修で活用を想定している。

整備局職員の研修での利用にあたっては、動画を閲覧する際の基礎情報として、発話者の属性や行動の背景など、発話内容からは得られない情報を教材として提供することとした。教材作成にあたっては、四国地方整備局職員から必要情報の聞き取りを行い、以下の内容について発話者への追加インタビューを行った。

表 7 教材作成にあたっての追加インタビュー項目

項目	内容
個人属性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出身地 ・ 被災時の居住場所に住むまでの来歴 ・ 家族構成（当時） ・ 被災時までの職務歴 ・ 被災時の職務内容
被災経験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被災経験（本災害以外） ・ ご自身がこのような大規模な災害に遭うと思っていたか。
防災意識，防災活動への参加意向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被災当時の防災への備えの程度 ・ 被災当時の役場の防災対応力の程度 ・ 防災訓練などの地域の防災活動への参加の必要性について，被災経験前後で意識が変化したか。 ・ 自治体や気象庁や国交省からの災害情報に関する関心は被災経験前後で変わったか。 ・ 築堤や砂防工事といった公共土木工事に対する思いは被災経験前後で変化があったか。
被災当時の行動について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難をすることになった，きっかけは（タイミング，情報の入手先，情報の内容） ・ 情報を入手する中で，問題は無かったか？

	<ul style="list-style-type: none"> ・避難先の選定理由は？ ・避難を判断するにあたり、どんな情報があれば良かったか？
--	---

インタビュー結果を教材として図 16 のようにとりまとめ、巻末資料に掲載した。

Q0 話者の経歴



話者 吉岡忠昭さ

吉岡忠昭さんの来歴（49災時は30歳）

- ・ 出身地：内海町
- ・ 居住履歴：出生から内海町在住
- ・ 家族構成（当時）：祖母、妻、長男（5歳）/51年災害時は次男（5ヶ月）
- ・ 被災時までの職務歴：内海町の建設課職員16年間（技術）、当時は工務係長、その後建設課長、水道課長、助役
- ・ 被災時の職務内容：技術職員3人（地区により担当決め）、補助員数名、事務職員で当時の建設課は10名程度

Q1 被災経験（本災害以外）

- ・ 吉岡氏：昭和36年災害を経験。当時は河川護岸が崩壊、道路の路側帯が崩壊した程度。それまで災害で死亡事故はなかった。49災当時土石流という言葉はまだメジャーではなかった。技術職員は強烈なショックを受けていた。死体捜索している横でテープボールをもって測量して罵声を浴びることもあった。しかしこの災害を体験して、乗り越えて自信ができた。
- ・ 池上氏：出生時は福岡の筑後平野の真ん中に住んでいた。筑後川周辺は平野のみで有明海の堤防の方が高い場所だった。幼少の頃、有明海の堤防が決壊してあたり一面水没。ゆっくり水位があがり、ゆっくり下がったので、泳げれば死ぬことはない被害だった。水が引くまでみなボートで行き来して生活をしていた。

Q2 ご自身がこのような大規模な災害に遭うと思っていたか。

- ・ 吉岡氏：全く想像していなかった。当時、このような災害は100年に1回だと言われていたので49年の災害の次は100年後だと思っていたが、翌年に51災。49災で29名亡くなったことから、避難体制づくりをしていたおかげで、51災当時に居住地域ではゴルフ場へ避難することができた。
- ・ 池上氏：全く思っていなかった。

Q3 被災当時どのような防災の備えをしていたか。

- ・ 吉岡氏：49災当時は「避難」などは思ってもみなかったことだった。このため、49災で避難体制を構築した。

Q4 被災当時の役場の防災対応力はどのような状況だったか。

- ・ 49災当時は警報により水防本部を設置。職員は現場が中心の業務で、通信手段は何もなく本部の情報が入ってこなかった。その教訓をふまえて51災では衛生面（薬品散布、し尿の処理）など改善がなされた。また、51災後に自治会の取り組みが進展した。現在でも7月に実施されている防災訓練は49災をきっかけに始まった。
- ・ 当時の自分たちは戦士だった。使命感をもって職務にあたった。自分たちがやらなければ誰がやるという意識。これまで経験していないことばかりで狼狽していたが、役場職員であるという手前、毅然とした態度をとるしかなかった。そのために知識をもつことは重要。災害復旧は発生年度含めて3か年で終わらせないとイケなかったのて、その後の仕事量も膨大に。49災、さらに51災で業務量が増大した。

図 16 研修教材のとりまとめ例

4. 今後の課題

本研究では、香川県内で過去に発生した大規模災害として小豆島で発生した昭和 49・51 年土砂災害、高松市で発生した平成 16 年高潮災害を対象に、災害証言記録を取得、証言記録にマルチレイヤー化を施し、市民学習や防災・危機管理研修に活用可能なウェブサイトと教材の作成を行った。

今後の課題について以下に述べる。

(1) 属性データ取得の再現性確保

本研究では、災害証言記録のマルチレイヤー化にあたり、発話者の証言内容に基づき、属性データの収集・整理を行った。本整理にあたっては、テキストデータを用いた作業の簡略化が期待される。そこで、下記（図 17 参照）に示す手順によりテキストデータとマルチレイヤーの関係性の整理を試行している。

一方で、発話内容は地域独特の言葉遣いや方言が豊富であり、この特徴が発話内容に臨場感を与えているものの、マルチレイヤー化には障害として残る。現在は、得られた生の発話内容を一旦要約し、テキストマイニング分析をかけているが、省力化が難しく今後の課題である。

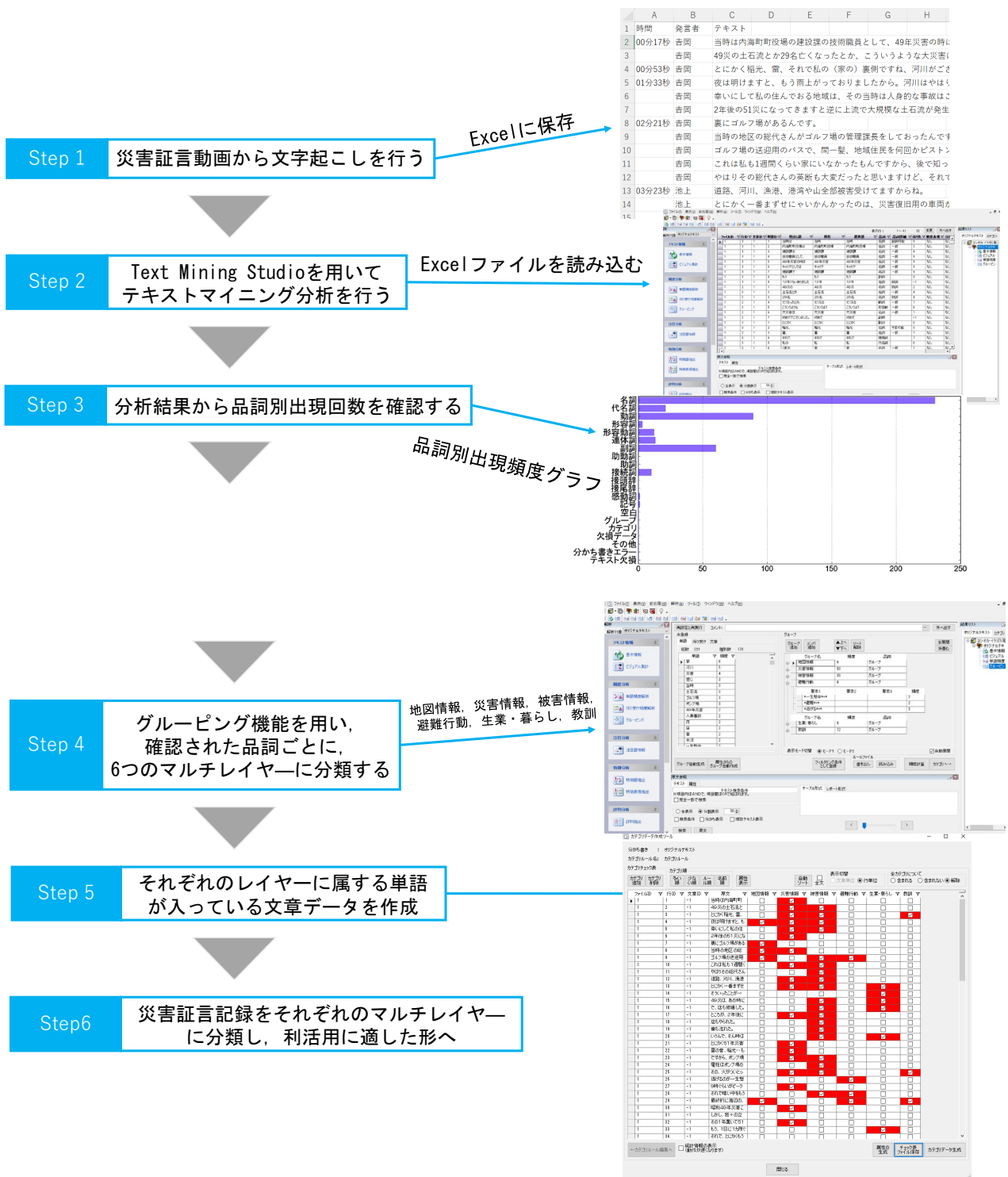


図 17 テキストマイニングを用いた属性データ取得の手順

(2) サーバー性能による機能的制限

本研究で作成したマルチレイヤーサイトは、香川大学のサーバーへ登載し、広く市民学習への利活用を期待している。

一方で、登載するサーバーの要件によりマルチレイヤー機能に限界があることから、今後他主体での取り組み展開の際にはこの点についても注意が必要である。

(3) 災害証言記録の継承方策

本研究の実施にあたり、平成 23 年東日本大震災で被災した宮城県女川町の災害遺構について調査を行っている。

東日本大震災において女川町は、町内の住宅 7 割が流失し、人口のおよそ 1 割が犠牲となった。この教訓を後世に伝えるために、女川町では災害遺構が残されている（図 18）。



図 18 女川町に残る旧女川交番の東日本大震災遺構

また、震災直後に女川第一中学校(現在の女川中学校)に入学した生徒らが、将来の津波被害を最小限にする取り組みの一つとして、地域住民と一体となり女川町内全ての浜に石碑を設置されている（図 19）¹⁾。

女川いのちの石碑・宮ヶ崎

概要	
内容	ただいま 聞きたい声が 聞こえない
建立	2014年
所在地	宮城県牡鹿郡女川町宮ヶ崎（山祇神社境内）
	神社境内のため、近隣に駐車する必要があります。 バス等も近隣の通行の妨げとならないよう注意してください。
その他	

図 19 中学生により設置されたいのちの石碑¹⁾

本取り組みは、石碑の設置にとどまらず、その後の維持管理も卒業生により定期的になされている。石碑が教訓継承に関わるメンバーの結節点となっており、活動そのものに教訓を反芻する効果がある。

災害証言記録のマルチレイヤー化は、発話者のナラティブデータを単なる動画でとどめず、発話に至った背景や客観的根拠などを合わせて確認できるような機能を持たせることで、災害教訓の効果的な伝承を目的としている。

昨今のDX化は発展著しく、数年先、10年先にどのような形態がコミュニケーションの主体であるのかは予測が不可能である。そのような状況においても、先人が経験した貴重な災害教訓を活用可能な状態に整えておくことが重要である。

一案としては、女川町交番のような現地サイト災害遺構を本研究における発話者と位置づけ、説明標識からマルチレイヤー機能を不随させたウェブサイトや地域内の他の災害遺構への誘導など、現地サイトとDX双方を考慮したストーリー型災害教訓伝承プログラムの構築などが期待される。

<参考文献>

- 1)女川町ウェブサイト：いのちの石碑マップ， https://www.town.onagawa.miyagi.jp/03_00_07.html
(2023.12.20 閲覧)

卷末資料

1 インタビュー対象者の発話記録

北野昭平発語

00分18秒

49災の時にはもう、実質大阪にいたから、もうはっきりはわからないんですけども、夜もう10時・11時ぐらいにはもう、どっと流れて。

00分51秒

あまりにもすごい、大阪でも雨でしたし、んで、ちょっと気になりますから。で、自分とこの家へ電話しても話し中ですね。

もう、結果的にはもう電線電話線が切れてから、もう不通状態。でもおふくろが長電話しよんかな、ぐらいに思っ

て。で、次の日の朝、ちょっと喫茶店で新聞を読んだら、橋地区で何人か亡くなったとか、そういうふうなん、ありましたから、

また慌てて家に電話したんですけど、もう全然つながりませんから、もうどうしようもないですね。

もう今から40年近く前の、大阪と小豆島の差いうのも、もうどうしようも縮めようがないですから。

もう夕方船が出るのを待って帰ってきた、いだけですね。

01分44秒

あの、部分的に点いておるところ坂手港、船から上がった坂手港なんかは明るかったです。

でもあの、道には結構、こういった石が崖つぶちいっぱい落ちてましたから。あー大したことないわ、いう感じで、自分とこまで帰ってきたら、もうとんでもない状況でしたから。

私とこは電気消えてますよね、電柱とかあの辺がいてますから。

車があったところ地面ごと無くなったよう、川の横に駐車場置いとった車が全部流れたという状況ですね。

02分21秒

百姓家ですから、お風呂とかトイレはちょっと離れて、棟別やったんがちょっとこうやられた、ぐらいで進みましたから、

生活するにはそんな、うちは、僕とこは、あの、影響はなかったです。

02分38秒

いや、もうまずありえんと思ひよったからね。

で、51年の時は9月の上旬だったと思うんですけど、あの今で言う、恐らく線状降水帯という感じで、もう2日3日、もうずーっと雨が、

あーもうお日さん見られんのかな、ゆうぐらいずっと雨降ってましたから。

03分02秒

寝付いた途端に親父に起こされたような感じで。裏山がやばいからとか、もう土砂降りやから、漏電も怖いからという感じで、

今僕が住んでる家が新築状態で、あの、家の周りができて、取り敢えず床板を張っているからいうんでもう避難して、

隣の人も避難してきたんですけど、隣りの人の家はもう完璧に流れてしまってたからね。

03分29秒

もう、海ですわ。流れの凄い大河の状態ですよ。

もう懐中電灯照らして、どんどんどん、あー家が無くなっていく、いう感じで、もう。

蔵が流れる時はおふくろはもうわめき散らしてましたけど。

03分47秒

その時点での避難場所ゆうんは、川の向こう側のお寺とかいう状況やから、とんでもないですから、もうおやじが、僕のお婆さん背中負うから、お前、この風呂敷包み持て、位牌が入っとるやつですね、昔の。それを持って、あのう、裏山のこう、ずっと流れが丘のようになってたから、もう夜明かし、そこまで行って夜明かしすれば

高いとこやから、まず浸かるところではないから、それでいかんか、いう感じでじつこう。。

時々こう懐中電灯照らして、井筒のところがかう上へあがったかとか、水が水位がどうのこうのいう感じで、ひと晩中。

んで夜中にちよつこう水が引いていったからね。それで助かりましたけどね。

04分35秒

昼間ちよつこう明るくなった時にはもう、僕のおやじや近所のおじさん50前後の人が、橋に引っかけたあの、流木、

あの今テレビなんかで、危険です、というようなことをしてました。のけてました。

ほれで、もう、川の色がどつと変わったから、慌てて僕も必死でおらんで、「危ない」言うて、

ほなうちのおやじや隣のおっさん連中は、ぱつこう、逃げましたけどね。

茶色というよりも、黄土色と茶色の間ぐらいの色やったんが、もっと濃い色ゆうんかな。

だからもう山にあったようなあの、腐葉土から何からがもう一緒くたでどつと流れてきたような感じですよ。

一緒に流木みたいな折れたような木がガーンと来てましたからね。

だから、川の高さがちよつと盛り上がったように感じて流れてきたから分かったんやと思いますよね。

05分37秒

水害が終わった時点でこう、ある・見に行った時にもう、川の中に屋根があるんですね。家の屋根が。

恐らくそれがどんと川の中へ入ったから、流れがもう、私の方の地区の全体に広がったんやと思うんですよ。

で、私ほうは川の北側で、その細い車一台通る道に、あと1軒ずつぐらいしか建っていない、家が建っていないですけど、

その反対側はもう、50メートル以上ずつこう、家が並んでますから、横にも並んでますから、そこへどつと広がったから、

恐らく私ほうはそこで済んで、セーフやって、その代わり、他の家が大体、床下・床上に近い状態で浸かった状態ですよ。

06分26秒

隣の地区にいるおじとかのぞきには来てくれました。あの、「どんなんで」という感じで。もう、ちよつと片付けたりとか。

あの49災の時は、もうちよつと僕のおふくろの兄が外国航路の船員してまして、あの時は休暇中やったから、こうやって石とかあんなん、土のけたりしてくれましたね。

06分48秒

自衛隊の方が来て、道は作ってくれて、でこぼこの道ですけど、まあ車は脱出できましたから。

でも、それもやっぱり人的被害がない一番、とこですから、一番遅かったような気がしますね。

やっぱりそれはしゃないですよ。人的被害があったらそこへ集中して対策起こさなあかんやろから。

だから、うわー自衛隊が来てくれた、ものすごう嬉しかったです。だから俺しばらくしたら車出られるなと。

07分22秒

えー、1年は越えとったと思いますね。その工事とかあんなん考えたら、2年近くかかったんかなあ。その周りの道とか、そういうなん。

07分33秒

高度成長期とかそんなんでも全然、もうみんな畑をしなくなりましたわね。

だから、僕のじいさんとかばあさんの時代は、もう朝から晩まで畑やう、やった時代やったのが、おやじ、おふくろの時代になってきたら、

やっぱり醤油屋、つくだ煮屋の現金収入を得て、その朝夕休みの日にちょっと畑をするやう時代になってきて、
どんどんその畑の面積が小さくなってきて山と畑が荒れてきたという。。。

今はもう畑ではないですね。ドングリ林ですわね。イノシシの散歩道みたいな感じですよ。

08分15秒

だからその、水害、雨が降ったらもう、その雨を食い止めるだけの地盤に力がない。

もうここに住み着いて、ここでもう大きくなっていう。それがやっぱ愛着でしょうね。だから住めば都なんですよかね。

恐らくあれでしょう、親父も小さい時からその裏山が崩れたりとか、そんなんを結構経験しとると思うんですよ。

恐らく僕も何回か裏の石垣が、この辺が崩れた、あっちが崩れた。ほしてまた石屋さん頼んだとかいうんも知ってましたから。

山が水が急に出たら、ここはやばいとか、そういうんなんかは、恐らく、ここで同じところで育った人は聞いとると思うんですよ。お年寄りから。

それはやっぱしこう、気にはしていかないかんのんちゃうかなと、思うんですけどね。

戸城広美発語

00分17秒

あの、地域の消防団の人かな、その、回ってきて。
放送してたんですけど、ちょっと聞き取れんので
ちょっと洗面所の窓を開けたら、もう水が出とったんです。

00分55秒

夜10時ぐらいだったような気がするんですけどね、
私はまだちょっとテレビ見よったから起きとったんですけど、
主人はもう寝よったんで。

01分05秒

そういうような経験はなかったし、最初はちょっと、よう分からなくて、
そしたら、どんどんどんどん増えていって、
それでもうびっくりして、これはいかん、いう感じで。
これはいかんいかん、台風で今あれやから
それで水が上がってきよるんやと思うて、これは困った困ったと。

もうそれだけで、やっぱりなんもできんね。
なんかせないかんと思うけど、なかなか。
なんかしょうでもない、なんか手元にあるもんをちょっと動かしたりで。

01分34秒

そしたらまた外でザワザワ言いだしたから、
でもう玄関開けてみたら、みんながワーワー言いよるとこだったんで、
もうとにかく、上にあげないかんわ言うんで、
みんながそれぞれバタバタとやっていました。

01分48秒

うちやったら床下もう、もうちょっと10センチくらいのところで床上になるんだったんですけど、玄関で。
もうちょっとだったな言うて、痕がいつとったんですけど、水の。後から見たら。

02分01秒

うちまあ、お婆ちゃんが寝よったから、そのお婆ちゃんが気になつとったんで。
ベッド起こして、2階へ背負っていかないかんとか言いよったんですけど、
まあ大丈夫だろういうんだったん・結局大丈夫だったんですけどね。
ほやけん、そんな時はやっぱし焦りました。
もう荷物濡れてもいいからお婆ちゃん上げないかんやろいうことで。うん。
ちょっとそれは心配しましたけどね。

02分27秒

でもう、割と早かったんかな、こう、引いていくんが。
ほやから、もう避難とかいうとこまではせんでも、
もう、たぶんもう引いていくわ、と誰か近所のおっちゃんが言いよったから、
えー大丈夫なん？言うたら、引く引くもう大丈夫じゃ言うて、
んだら、やっぱだんだんと、引くんもまた早かったんです。

サーっと引いた感じで。
んであとはもう、いろんなもんが流れてきたもう瓦礫の山で。

02分55秒

もう片付けるんは、これあんたどこから手え付けるん？て、どこから言うてもの、まあとにかく、この外に出るとる分はまあ市が回収に来てくれるみたいだから、そうしようと。近所みんなが出てきて瓦礫集めてしよったから、それ済んで、ほんならこれくらいでいいか、まあ明日の朝やなあ、言って引き揚げたんが、たぶん12時過ぎとつたとは思いますがどね。

03分20秒

うちは結局はそんなに被害いう被害はなかったんで、まああの、シャッターを替えた、その電気のあれをちょっと替えたんと、洗濯機がダメになったんと、ぐらいであとはもう、クーラーも動いたから。

03分36秒

もう洗濯機も新しい・まあ何でもええから持ってきて、あん時、無かつたんですよ洗濯機も電気屋さんに。んでもう、何でもいいけん持ってきてって、もう、すぐ洗濯せないかんことやから。雑巾や何やたっぷりたまつとるから言うて。それで、一週間ぐらいであれしたかなあ。
んで車がまあ、ちょっとやっぱり浸かって使えなんだから、それはちょっと日数がかかったかな。

04分01秒

んであの、もう、ほかの所へ手伝いに行かないかんいうて、その日ちょっと仕事休んだんかな。んであの、昭和町の方にも手伝いに行ったりして。んならそこは、うちらみたいなものじゃない、全然いかないうて、すごいやんって言いながら、あの、手伝いに行ったんですけどね、それ見たらやっぱり、わあみんないろんな所で、大きな町昭和町あそこのあたりでもやっぱりすごいなあ。横に大きな川があるから、あそこから流れたんやなあって言いながら、だけどうちの方もこれでよかつたなあ言いながらもう・

04分35秒

やけど、ニュースなんか見たら凄いなと思うてな、みんなあれ凄いな、家が崩れたりとかね、もう床上になつたりしとるから見たら、うちの時はまだ床下であれだったのに、床上だったらどんなんやろ思うて、その対応というか、あれがなあ、もう手も付けられんだろうし。やけん、やっぱり大変なことなんやと思うて。ニュースではひと事とで見とるけどね、いざ自分がそうなったら、ほんま何も体が動かんと思うて。

05分03秒

だからやっぱり人の力ですね。あれ。
みんながバーっと出てきたら、やっぱり片付けも早いし、あの、やっぱ自分とこしとつたら、次あっちも行かないかんで言うて、うん言うて。

05分17秒

ごみ出しに行ったりとかしたら、やっぱ挨拶するけど、そういうの挨拶せん人もおいでるから、そいな人もやっぱり、その時でも家から出てこんし、んならみんなが、ほっとけ、いうことになるし、

やっぱり、日頃からやっぱりその、付き合いいうんもやっぱり無かったら、近所付き合いもいるなと思うて、その時には思いました。

05分40秒

あの、ま、イトーピア、うちやったらイトーピアが近いから、イトーピアが建物高いから、そこへ行くとかいう風になつとるかな。うん。だけどなかなかそこ行くまでがねえ、いかんから、やっぱり自分の家で2階から上へあがるとか、なんか物置いてその上にあがるか、高うにしようか言うたりするけれども、じゃあほんならその時にはどうするどこへ避難とかいうて、そういなあれも、そういう風な話は無いですね。うん。

06分13秒

すぐ裏が岸壁やけど、全然私の頭の中にはそれが無かって、娘にはすごい叱られるけど、県外に居とるから、「津波やゆうん考えんのな」とか言われて、でもしょうがないし津波が来たら、言うてんなんで、もうちょっと真剣に考えんといかんことやな、と思うけど。

06分38秒

私あの、実家が、親がおるのがちょっと離れておるのが南に離れとるから、もうそっち行って住めと言われました。「怖ないんか、ここにおって」と言うけん、いやいや別にもうそないには無いで、再々来るもんじゃないわ、とか言いながら、「もう、ようそんな気になれるの」言うけど、いやいや家替わるいうたって替わったらそこから一から始めないかんのに、近所の人と話したりなんやいうて。もうずっと結婚してからずっと同じところから、やっぱりねえ、やっぱりみんなと顔なじみやし、そういう人がおる、やっぱり心強いと思うんで。やっぱり何かあったらすぐ言うていけるし、こんなんどないしたらええん？、とか言うたりできるから。

07分19秒

やはり若い人の力すごいと思うんでね。やから若い人と接点をもてるように、まあとにかく家におったんでは全然いかんから、やっぱり外へ出て、まあ地域のいろんな行事とかあったりしたら、そういうの参加して、あの、ほたらどこか顔合わせたことがあったりしたら、あー、いう話になって。人って話したらやっぱりその不安いうんもちょっとね、和らぐと思うんですよ。

07分45秒

だから、今、私の周りおるところはもう全部みんな、私、まあ似たような年の人が多いんやけど、ちょっと下の若い方もおいでますけど、やはり話をするこ、ほんなら、あーあそこ今何人で住どんやとか、そういうな人も分かるし、うちも向かいにおおかた90になるお婆さんが一人でおるんやけど、頼むで頼むで言うけん、そやのう、うちも一人になったけんお互いや言うて、あの、言うたりするけどね。で、自分の周りのところだけやっぱり気になりますね。夜行っても電気が点いてなかったら、うわ、どっしょんかいのとか思うたりするけどね。それは前よりはちょっと意識ができたかなとは思います。

やけんまあ、若い人にはどんどんとまあ、若い人も忙しいからあれやけども、そういうなを、まあ、見てというか、ちょっとやっぱり自分も地域にちょっと関わらないかんな、とかいうふうに思ってくれたらええけどなあと思うてます。

浜口美須榮発語

00分18秒

えーもう何日もね、雨がもう降ってね、その日はもうバケツで移すぐらい雨降ってました。

00分47秒

でもう主人はもう消防に出てね、あの何日も家にいてなかったんです。けど、帰ってきてお風呂は入って、そないしてたらあの、この吉ヶ浦いうところのね、そこのズしてきよるんで来てくれ言うんでね、またお風呂出て、行ったら、そこの久保のねきでね、もう、いこと2人が大方もう、下敷きになるとこやった。私もそれ見たんですよ。ドーンという音と共にね。なら2人がバーっと走って、主人の背中にね、あの、木がね、あの擦れたいうのかね、ずっと擦れてね。

01分38秒

そんで主人が帰ってきて、私が外で、川が・・谷言うんですよ、川までいかんから、小さい。で、そこでゴミを取りよったら、ドーンという音がして、ほんで、もうびっくりして、主人が「うわー、上から来るよ、逃げー」言うてね、大きな声でおらんでね。ほんでもう私が隣のとこ窓際へ行ったら家が紙が飛ぶようにずっと飛んでいくんですよ。船はダダダッと重なっていくしね、もうほんまにあの、どない言うてえんかね。みんな呼んでも気失のうてしもてね、あの、お義母さんも、あの、下敷きになって、で長男も下敷きになって、主人の姉は船のね、3杯の底におったんですよ。もうほんまにあの、こんなんですよ。木で、木やね。で、十畳間ぐらいな石もダーッと波止の横まで流れとるしね、なにゆうことないん。

02分53秒

で、波止の上までどうにかこうにか行って、ほいで帰ってきよったら、あの、お父さんお父さんって主人を呼んだら、主人は隣の蔵に打たれて、血まみれで出てきたんですよ。うん。もう頭から。

03分11秒

ほたらお婆ちゃんはちょうどこの床柱やあの、なに、畳やがみんなお婆ちゃんの上乗っとなんですよ。で、こっから上はきれいなんやけど、太ももいうたらえぐれ、ほてもう、あの、脛の下いうたら半分、(つけのねきたら?)足首いうたら半分なって。その、お婆ちゃん出す時は、その4人ぐらいがてごしてくれて。ほんで、その時はまだもうこの谷尻が上が全然、家が見えんよ言うて、そないいう話まで、朝までお母さんに話してたんですよ。だからお母さんもこんななっとなを分かって亡くなって。お父さんの背中の上で亡くなったみたいな感じ。

04分05秒

でもう、避難するどうするゆうたって波は大きいし、どっこも行くところない。カッパ脱いで保安庁呼んで、でもう保安庁が気が付いてくれたから、で、来てくれて。ほんであの、それもね、こっちにおったらもう水もないし、ね、食べるもんもないから、あの、いっぺん、にへん、3回あの、内海へ通ってくれたんですよ。

04分41秒

プレハブに行って、2・・1年ちょっとおったんかな。ほで、そこの住宅がね、出来てね。ほんでそこでこの家建つまでおったんですよ。僕はしまいに大工になる言いだしてね、やっぱり下におばあさんたちがあって、ほんだら子供やから、あの、どない言うんかなあ、

あの、ほたえる言うんか、暴れるいうんか遊ぶでしょ。どんどんいうて。たら下へ響くんですよ。それ言われるんが辛かったらしいです。子どもなりにね。やっぱりね、中学校2年と、6年と4年と、1年とやったからね。

05分30秒

私らが沖から帰ってきたらね、一番下の、やっぱ1年生やから学校早うに、あの、ねえ、帰ってくるでしょ。ほたら、濡れしょぼけて私らを待ちよんですよ。その波止のねきでね。涙出てきよった。いまだに、ほやから娘たちも息子も、やっぱり雷が鳴って雨が降ったら怖いんですよ。

05分58秒

海苔をし出してね。で、もうその海苔やって水島からね、何あの、油が来たりね。いっぺんはもう色落ちして、ほて、いっぺんは魚にみな食べられて、そないもって。

06分19秒

もうあの、区画してもね、その、石がなんぼでも出てくるん。ほやから一輪車でね、何べん運んだかわからんくらい。その、畑にするんも。働いて働いて、もうものすごうね。あの、どない言うんかな、一生懸命働かなんたらお金もないしね。

06分47秒

私のすぐ上の姉が岡山にいてね、あの、伊部と邑久に家があるから、どっちかあげるからおいでって言うたんですよ。そんなら主人も子どももね、学校が変わるしね、婆ちゃんが守ったとこやからね、おるって言うんですよ。

07分07秒

あの、100歳のおばあさんがね、100年にいっぺんはこんなことある言うてね。災害あった後に聞かされたんです。だからやっぱりね、無いとは限らんね。うん。ほやから地震も怖いけど、やっぱりここはあれね、あの、大学の先生から、何か崩れやすいんやてね。小豆島のこの土地が。

07分39秒

ほやから、私らもその災害の時、胸まで水がきたんですよ。「おもて」いうてね、母屋と納屋とある、こう囲んだる広場が「おもて」いうてあって、そこまで水きたからね。んで水が無しになったから、大丈夫やと思った。ほやけど、それがあかなんだ。上で溜まってね。池になっとったんやね。それがもうドーンといっぺんに来たから。

08分09秒

ほやからあの、私、あの婦人会とか農協のあの、何しとったから、役。ほやから4~5年したんかな。ほんで、その時に話して敬老会とか。ほな若い子が来るでしょ。ほやからこんなんがあったから、気をつけなっていうんは言うてます。うん。

08分36秒

もうこの頃ね、どこもかしこも、あの、ね。世界中が変になってきとるからね。どこが安全とは言い切れんね。

平尾清子発語

00分17秒

テレビを下で見てまして、もう閉めていますよね。クーラーかけてるからね。で、主人が2階に上がって、近所が騒々しいとクーラーを掛ける前は窓を開けていましたからね。で、騒々しいからおかしい水が出たっていう声が聞こえたぞっていうことから始まったんですね。うん。

01分04秒

あれは10・11時前だ・10時半過ぎだったですかね。で、もう外に出ると、結局まだそんな状態ではなくて、水は無くて。でまあ、まずそうですね。自転車をちょっと外に出してたのを駐車場の方に持っていきましたかね。ちょっと高いところに入れたら置いたらいいかなと思ってね。行くときはこう足首だったんですね。お水の量が。でもあの、置いて、ちょっとくり付けてフェンスにね。フェンスにくり付けて。帰る時はもう本当の1分もかからないところなんですけど、膝上でしたね。水の量が。そのぐらいやっぱりね早業だったんですよ。それが11時ぐらいだったですかね。それからどーっと来はじめて。

01分59秒

まあ1時間たった頃にはもう床上でしたかね。うん。静かに来たような水なんですけれど、みるみるこう上がってきましたね。ちょっと今までになかったことだったのでね。慌てましたねやっぱり。でもう、まずブレーカー、ちょっと下に井戸のモーターがありましたからね。それでブレーカーやられまして、一番に停電したんです。で、その時近所を見ましたら、近所は電気付いてるからね。いや、我が家だけ停電かなっていうのんきな考えだったんですけど、そのうち皆さんも停電になって。2時3時ぐらいまでその、ま、眺めるいうたらあれですけど、ここから上がらないからちょっと仮眠した方がいいかな、言うんでね。3時4時ぐらいからちょっと1時間ぐらい仮眠して。

02分59秒

で外に出たら、結局車の、駐車場の車の取っ手のところまで水がまだありました。5時ぐらいは。ボート、ゴムボートでちょっと避難したり、それからおっぱして避難したり、そういうことはありましたね。うん。だからまあ、それから7時・8時・8時過ぎにはちょっと引きましたかね、お水はうん、そんな感じで。

03分31秒

うちも高めにしたつもりなんですけれども、あそこ播鉢谷川がありますよね。あれから中央市場との通りとでこう、スーッと下がった位置の一番底辺だったんですね。それであげたんですけど、そこまで入ったから、皆さんは畳とかもう洗濯機が冷蔵庫がひっくり返ったとか、そういう情報は入りましたね。後で。

03分57秒

お水が引くまではどうすることもできないし、外にも出られないし、もう入れてないお風呂に満水になってるし、トイレは使えないし、ほんと大変な状態だったです。水に濡れたものを出すのがね、皆さん、各家庭で大変だったと思うんで。公園がありますでしょう、うちの方ね。今西公園になってますけど。でそこも、ものすごい山のゴミで。それから家の前の駐車場ももうゴミの山で。

04分33秒

40ぐらいかな。40ぐらいかな、35〜40ぐらいで市役所の方が測っていただきましたら、そうになりましたね。で後の処置としてはもうホースでフローリングだからホースでこす洗いました。もうあんなこと、ほんとね家の中をホース流すなんて、そんなん考えたこともなかったですけど。

04分55秒

噴霧器でやっぱり、石灰も撒いてくれたと思いますね。床下なんかはね。で、排水口がありますでしょ。そこもちゃんとやってくれたと思います。

05分09秒

1日もう20回ぐらい拭きました。もう潮がこす、吹いてきましたからね。光があつたり、拭いても拭いてもそれだったから、これはやっぱり海水がねあるかなと思って、フローリングはもう全て取り換えして。

05分29秒

わりあいと自治会長さんの手配が早くお弁当なんかも来ましたし。で、あっちこっちのコミセンへ行ったらお弁当がもらえるよっていうんで、そういう情報を流して。もう地域はもう2日か・・・2日か3日ぐらい来たんじゃないですかね。このコミセンからもおむすび、日赤奉仕団員がおむすびしていただいたり、それはもういつきだったんですけどね。で、私も分団員なんですけど、地域をお手伝いするからいうことで、地域お手伝いの方に回りましたかね。

06分10秒

ちょっと北側がひどくお水が入りましたからね。ほんと憔悴しきってて。で、お弁当を配りながら、あの、何もなかったみたいによっぱりね思ったんでしょね。私はお手伝いしてたから。私んところも入りましたと。だけど徐々にね。ちょっとずつあの、それを改善していくようにするからね。でも、皆さんも頑張ろうね。いう感じで頑張ろうって何か手伝うことがあつたら言ってねいう感じの。たらもう、元気が出ました。頑張りますってね。皆さん、それぞれがもうちょっと家より大変だったんで、そういうあれだったり、亡くなった方もいらっしゃるから。もうほんと、そういうのなので皆さん落ち込んでたんですよ。でも亡くなった方は、車、外部からね来た方だから。もう入ってズブッと入つたらもうどうしようもなかったんでしょね。

07分09秒

息子にも言われます。もうそんなことがあつたし、トレードしようかと自分は香西の方のマンションにいるんですけど、まあ、見に来ててもその高台からズボッと浸かっている我が家を見て思ったんじゃないですかね。うん。替われと、うん。でもお母さんが動かんっていうのは何やって言われます。何でしょうね。皆さん住んでますからね。今度来ててもどうするって言っても受けるしかないって、うん。大変な事態になりかねない。そういうなのは、ちょっと予想をしながらも皆さん動いてないですもん。うん。

08分05秒

まあ、ほんとと自助公助言いますけど、ほんとと自分のことができてこそ、周りのことに目がいくっていう形で。でもう、南海地震が来るとかいう情報がね、色々巷に出てるから、その時はと思って私あの、自治会の役員さんが男性が多いのでね、で、女性部を作りたくて、2年前に自治会長に提案したんです。それはいいことだつていうことで、しょうか思つたらコロナになつたから集められないでしょう。それがちょっと、あの時あの時点でこす、やっつけばよかつたかなと思うんですけど、今からでも遅くないと思うので、それはね、ちよ

と。

08分55秒

もう忘れてるんですよ。多分。18・・20年前のね、ことだから。

私も忘れかけてるんですけど、こういう風にね、何かちょっと機会を与えていただいたら、また考え直すことになったかなとは思うので、

もうちょっとコロナさんが収まったらね、また、それを始めてみたいかなと。

もう年齢もね、だいぶアレなので、声掛けするのが若い人にバトンタッチしたいなと思うから、

ちょっと一人二人、こうね、協力体制の人がいたら、やりやすいからそういうような人をちょっと引っ張ってるんですけどね。うん。

まあ、頑張ります。

2 取得した記録に対する属性

項目	吉岡忠昭さん・池上恵さん		浜口美須榮さん		平尾静子さん	
①空間情報 位置 (緯度経度)、 災害範囲	Googleマップ (小豆島町当浜地区)	https://www.google.co.jp/maps/place/%E3%80%92761-4403+%E9%A6%99%E5%B7%9D%E7%9C%8C%E5%B0%8F%E8%B1%86%E9%83%A1%E5%B0%8F%E8%B1%86%E5%B3%B6%E7%94%BA%E5%BD%93%E6%B5%9C/@	Googleマップ (小豆島町谷尻地区)	https://www.google.co.jp/maps/place/%E8%B0%B7%E5%B0%BB%E6%BC%81%E6%B8%AF/@34.4303658,134.24414,14.92z/data=!4m1!1m7!3m6!1s0x35538780056cecbd:0x7e46d3bc7c6c0c55!2z6LC35bC75ryB5riv!8m2!3d34.4254158!4d134.2479368!16s%2Fg%2F11j9dbd7zg!3m5!1s0x35538780056cecbd:0x7e46d3bc7c6c0c55!8m2!3d34.4254158!4d134.2479368!16s%2Fg%2F11j9dbd7zg?hl=ja	Googleマップ (高松市扇町)	https://www.google.co.jp/maps/place/%E3%80%92760-0013+%E9%A6%99%E5%B7%9D%E7%9C%8C%E9%AB%98%E6%9D%BE%E5%B8%82%E6%89%87%E7%94%BA/@34.3461059,134.0320115,17z/data=!3m1!4b1!4m6!3m5!1s0x35538780056cecbd:0x9b8696e10ff2ca73!8m2!3d34.3454817!4d134.0347911!6s%2Fg%2F11jr4_3q7n?hl=ja
	Googleマップ (小豆島町安田地区)	https://www.google.co.jp/maps/search/%E5%B0%8F%E8%B1%86%E5%B3%B6%E3%80%80%E5%AE%89%E7%94%B0/@34.4957517,134.3076078,14z/data=!3m1!4b1?hl=ja			高松市/ 過去の台風による被害情報 (高潮浸水想定区域図)	https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/kurashi/s_hobo/bosai_map/typhoon_higai.files/takasio.pdf
	小豆島町/ 災害の歴史(災害地図)	https://www.town.shodoshima.lg.jp/material/files/group/2/honbun.pdf	小豆島町/ 災害の歴史(災害地図)	https://www.town.shodoshima.lg.jp/material/files/group/2/honbun.pdf	高松市/ 過去の台風による被害情報 (高潮浸水地域図)	https://www.kagawa-u.ac.jp/files/1213/6376/2401/180628_Part1.pdf
					高松市/ 過去の台風による被害情報	https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/kurashi/s_hobo/bosai_map/typhoon_higai.html
②災害情報 気象 (台風経路、 雨量)、浸水、 土砂災害	小豆島町/ 災害の歴史	https://www.town.shodoshima.lg.jp/gyousei/kakuka/somu/2_1/3/4808.html	小豆島町/ 災害の歴史	https://www.town.shodoshima.lg.jp/gyousei/kakuka/somu/2_1/3/4808.html	高松市/ 過去の台風による被害情報	https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/kurashi/s_hobo/bosai_map/typhoon_higai.html
	四国災害アーカイブス/ 検索キーワード:小豆島町・土 砂災害	https://www.shikoku-saigai.com/?custom_search=&field_pref=%E9%A6%99%E5%B7%9D%E7%9C%8C&field_city=%E5%B0%8F%E8%B1%86%E5%B3%B6%E7%94%BA&field_dis_kind=%E5%9C%9F%E7%A0%82%E7%81%BD%E5%AE%B3&s=&field_date=19650101-19890108	四国災害アーカイブス/ 検索キーワード:小豆島町・土 砂災害	https://www.shikoku-saigai.com/?custom_search=&field_pref=%E9%A6%99%E5%B7%9D%E7%9C%8C&field_city=%E5%B0%8F%E8%B1%86%E5%B3%B6%E7%94%BA&field_dis_kind=%E5%9C%9F%E7%A0%82%E7%81%BD%E5%AE%B3&s=&field_date=19650101-19890108	四国災害アーカイブス/ 検索キーワード:高松市・高潮	https://www.shikoku-saigai.com/?custom_search=&field_pref=%E9%A6%99%E5%B7%9D%E7%9C%8C&field_city=%E9%AB%98%E6%9D%BE%E5%B8%82&field_dis_kind=%E9%AB%98%E6%BD%AE&s=&field_date=19890108-21000000
					香川大学/ 平成16年度台風災害調査 (高潮浸水地域図)	https://www.kagawa-u.ac.jp/files/1213/6376/2401/180628_Part1.pdf
③被害情報 災害記録 (人的被害、 物的被害、 生活支障)	小豆島町/ 災害の記録	https://www.town.shodoshima.lg.jp/material/files/group/2/honbun.pdf	小豆島町/ 災害の記録	https://www.town.shodoshima.lg.jp/material/files/group/2/honbun.pdf	高松市/ 高松市地域防災計画 資料 編「災害に関する記録等」 (p.267~)	https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/kurashi/s_hobo/keikaku/chiiki_bosai/gaiyou.files/shiryou-r3.pdf
	香川県/ 香川県と土砂災害	https://www.pref.kagawa.lg.jp/kasensabo/sabo/outline.html	香川県/ 香川県と土砂災害	https://www.pref.kagawa.lg.jp/kasensabo/sabo/outline.html	香川県/ 過去の水害実績	https://www.pref.kagawa.lg.jp/kasensabo/kasen/suigai.html
	高松地方気象台/ 昭和51年(1976年)台風第 17号	https://www.jma-net.go.jp/takamatsu/3_bousai/shizengenshou/kishou/tebiki/kako_kagawa/kakojirei_1976_t7617.pdf	高松地方気象台/ 昭和51年(1976年)台風第 17号	https://www.jma-net.go.jp/takamatsu/3_bousai/shizengenshou/kishou/tebiki/kako_kagawa/kakojirei_1976_t7617.pdf	高松地方気象台/ 平成16年(2004年)台風第 16号	https://www.jma-net.go.jp/takamatsu/3_bousai/shizengenshou/kishou/tebiki/kako_kagawa/kakojirei_2004_t0416.pdf
④避難行動 避難トリガー、 避難判断、 避難先	小豆島町/ 各地区避難場所一覧	https://www.town.shodoshima.lg.jp/material/files/group/2/201905hinanbasyo.pdf	小豆島町/ 各地区避難場所一覧	https://www.town.shodoshima.lg.jp/material/files/group/2/201905hinanbasyo.pdf	高松市/ 指定緊急避難場所・指定避難 所	https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/kurashi/s_hobo/bosai_map/takamatsu_map/hinanjo.html
	小豆島町/ 土砂災害ハザードマップ	http://www.earth-planning-kagawa.com/tiriintizu3/entrance/dosyasaigaientrance.html	小豆島町/ 土砂災害ハザードマップ	http://www.earth-planning-kagawa.com/tiriintizu3/entrance/dosyasaigaientrance.html	高松市/ 高潮ハザードマップ	https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/kurashi/s_hobo/bosai_map/takamatsu_map/index.files/takasio_s_s.pdf
	香川県/ かがわ防災Webポータル	https://www.bousai-kagawa.jp/P_PUB_VF_CityInfo?city=324&kind=ev	香川県/ かがわ防災Webポータル	https://www.bousai-kagawa.jp/P_PUB_VF_CityInfo?city=324&kind=ev	香川県/ かがわ防災Webポータル	https://www.bousai-kagawa.jp/P_PUB_VF_CityInfo?city=324&kind=ev
⑤復旧・復興 避難所生活、 生活再建	小豆島町/ 被災された方へ	https://www.town.shodoshima.lg.jp/gyousei/kakuka/somu/2_1/hisaisha/index.html	小豆島町/ 被災された方へ	https://www.town.shodoshima.lg.jp/gyousei/kakuka/somu/2_1/hisaisha/index.html	高松市/ 罹災証明書・被災証明書	https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/kurashi/s_homei/shomei/hisaishomei.html
	香川県社会福祉協議会/ 香川DWAT(災害支援)	https://www.kagawaken-shakyo.or.jp/media-download/187/00b777e4e158a80b/	香川県社会福祉協議会/ 香川DWAT(災害支援)	https://www.kagawaken-shakyo.or.jp/media-download/187/00b777e4e158a80b/	香川県社会福祉協議会/ 香川DWAT(災害支援)	https://www.kagawaken-shakyo.or.jp/media-download/187/00b777e4e158a80b/
	内閣府/ 被災者支援に関する各種制度 の概要	https://www.bousai.go.jp/taisaku/hisaisyagyousei/pdf/kakusyuseido_tsuujuu.pdf	内閣府/ 被災者支援に関する各種制度 の概要	https://www.bousai.go.jp/taisaku/hisaisyagyousei/pdf/kakusyuseido_tsuujuu.pdf	内閣府/ 被災者支援に関する各種制度 の概要	https://www.bousai.go.jp/taisaku/hisaisyagyousei/pdf/kakusyuseido_tsuujuu.pdf
⑥生業・暮らし 生業確保、 防災まちづくり	小豆島観光協会	https://shodoshima.or.jp/	小豆島観光協会	https://shodoshima.or.jp/	二番丁地区コミュニテイ 協議会	https://www.nibantyo.net/
	小豆島醤油協同組合	https://shima-shoyu.com/	池田漁業組合	https://jf-ikeda.com/	高松市公式観光サイト	https://www.art-takamatsu.com/jp/
	第2期小豆島町の人口ビジョ ンと総合戦略(令和2年~6 年)	https://www.town.shodoshima.lg.jp/gyousei/choseijoho/about_town/sogosenryaku/3832.html	第2期小豆島町の人口ビジョ ンと総合戦略(令和2年~6 年)	https://www.town.shodoshima.lg.jp/gyousei/choseijoho/about_town/sogosenryaku/3832.html	たかまつ創生総合戦略(令和 2年度~令和6年度)	http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotori_kumi/keikaku/sonota/sosei/index.html
⑦災害教訓 災害伝承、 事前の備え、 地域防災、 地質	小豆島町/ 防災関連マップ	https://www.town.shodoshima.lg.jp/gyousei/kakuka/somu/2_1/3/bousai_map.html	小豆島町/ 防災関連マップ	https://www.town.shodoshima.lg.jp/gyousei/kakuka/somu/2_1/3/bousai_map.html	高松市/ 防災マップ	https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/kurashi/s_hobo/bosai_map/takamatsu_map/index.html
	国土地理院/ 自然災害伝承碑	http://maps.gsi.go.jp/#12/34.477199/134.268551/&base=std&ls=std%7Cdisaster_lore_all&disp=11&lcd=disaster_lore_all&vs=c0g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1&d=m	国土地理院/ 自然災害伝承碑	http://maps.gsi.go.jp/#12/34.477199/134.268551/&base=std&ls=std%7Cdisaster_lore_all&disp=11&lcd=disaster_lore_all&vs=c0g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1&d=m		
	四国防災共同教育センター/ 四国の防災風土資源マップ	https://www.kagawa-u.ac.jp/dpec/areainfo/	四国防災共同教育センター/ 四国の防災風土資源マップ	https://www.kagawa-u.ac.jp/dpec/areainfo/	四国防災共同教育センター/ 四国の防災風土資源マップ	https://www.kagawa-u.ac.jp/dpec/areainfo/
⑧災害への 備え リアルタイム情報 (気象、浸水、 土砂災害)	気象庁/ あなたの街の防災情報(小豆 島町)	https://www.jma.go.jp/bosai/#pattern=default&area_type=class20s&area_code=3732400	気象庁/ あなたの街の防災情報(小豆 島町)	https://www.jma.go.jp/bosai/#pattern=default&area_type=class20s&area_code=3732400	気象庁/ あなたの街の防災情報(高松 市)	https://www.jma.go.jp/bosai/#area_type=class20s&area_code=3720100&pattern=default
	国土交通省/ 川の防災情報(四国)	https://www.river.go.jp/portal/?region=88&contents=multi	国土交通省/ 川の防災情報(四国)	https://www.river.go.jp/portal/?region=88&contents=multi	国土交通省/ 川の防災情報(四国)	https://www.river.go.jp/portal/?region=88&contents=multi
	Twitter/ 小豆島町	https://twitter.com/shodoshima_town	Twitter/ 小豆島町	https://twitter.com/shodoshima_town	Twitter/ 高松市	https://twitter.com/takamatsu_kouho

①空間情報

00:46



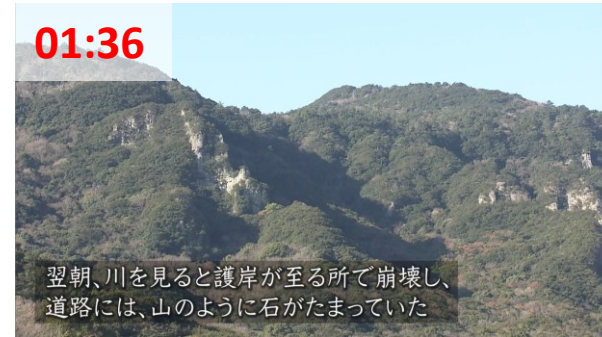
②災害情報

04:53



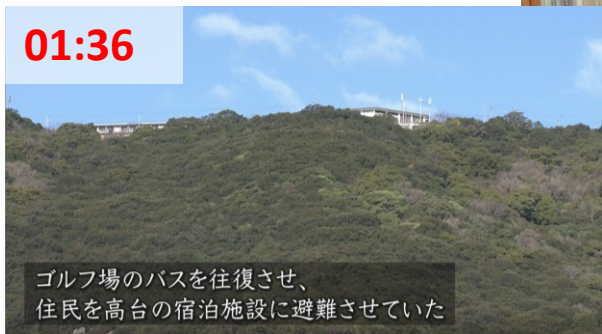
③被害情報

01:36



④避難行動

01:36



⑤復旧・復興

03:35



⑥生業・暮らし

08:19



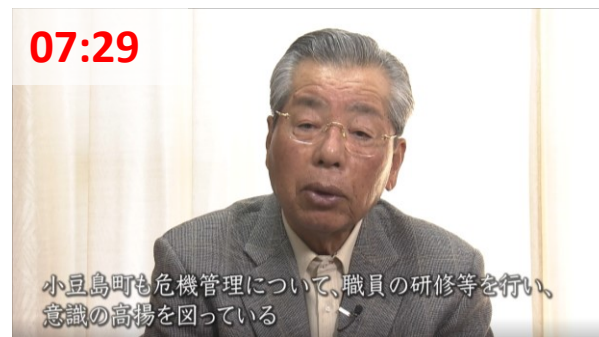
⑦災害教訓

06:15



⑧災害への備え

07:29



①空間情報

00:28



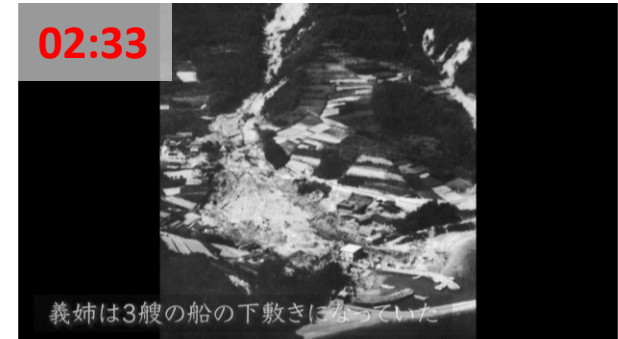
②災害情報

01:52



③被害情報

02:33



④避難行動

04:06



⑤復旧・復興

04:42



⑥生業・暮らし

05:59



⑦災害教訓

08:03



⑧災害への備え

07:24



①空間情報

00:43



②災害情報

02:05



③被害情報

06:54



④避難行動

03:09



⑤復旧・復興

04:21



⑥生業・暮らし

05:52



⑦災害教訓

08:56



⑧災害への備え

08:06



3 行政職員用教材

Q0 話者の経歴



話者 吉岡忠昭さん（左） 池上恵さん（右）

吉岡忠昭さんの来歴（49災時は30歳）

- 出身地:内海町
- 居住履歴:出生から内海町在住
- 家族構成(当時):祖母、妻、長男(5歳)
/51年災害時は次男(5ヶ月)
- 被災時までの職務歴:内海町の建設課職員16年間(技術)、当時は工務係長、その後建設課長、水道課長、助役
- 被災時の職務内容:技術職員3人(地区割により担当決め)、補助員数名、事務職員で当時の建設課は10名程度

池上恵さんの来歴（49災時は26歳）

- 出身地:福岡県柳川市
- 居住履歴:就業後大阪2年、小豆島2年、鳥取県境港市、内海町
- 家族構成(当時):義母、妻、長女(2歳)、長男(0歳)
- 被災時までの職務歴:日本道路公団(約6年)を経て、結婚のため内海町役場に昭和47年入庁。被災時は入庁後3年目。
- 被災時の職務内容:吉岡係長のもと係員
- 被災経験:49災・51災とも自宅が被災。土石流が家を通して家財が全て流出。

Q1 被災経験（本災害以外）

- 吉岡氏：昭和36年災害を経験。当時は河川護岸が崩壊、道路の路側帯が崩壊した程度。それまで災害で死亡事故はなかった。49災当時土石流という言葉はまだメジャーではなかった。技術職員は強烈なショックを受けていた。死体捜索している横でテープとポールをもって測量して罵声を浴びることもあった。しかしこの災害を体験して、乗り越えて自信ができた。
- 池上氏：出生時は福岡の筑後平野の真ん中に住んでいた。筑後川周辺は平野のみで有明海の堤防の方が高い場所だった。幼少の頃、有明海の堤防が決壊してあたり一面水没。ゆっくり水位があがり、ゆっくり下がったので、泳げれば死ぬことはない被害だった。水が引くまでみなボートで行き来して生活をしていた。

Q2 ご自身がこのような大規模な災害に遭うと思っていたか。

- 吉岡氏：全く想像していなかった。当時、このような災害は100年に1回だと言われていたので49年の災害の次は100年後だと思っていたが、翌々年に51災。49災で29名亡くなったことから、避難体制づくりをしていたおかげで、51災当時に居住地域ではゴルフ場へ避難することができた。
- 池上氏：全く思っていなかった。

Q3 被災当時の防災の備えの程度

- 吉岡氏：49災当時は「避難」などは思ってもみなかったことだった。このため、49災で避難体制を構築した。

Q4 被災当時の役場の防災対応力はどのような状況だったか。

- 49災当時は警報により水防本部を設置。職員は現場が中心の業務で、通信手段は何もなく本部の情報は入ってこなかった。その教訓をふまえて51災では衛生面（薬品散布、し尿の処理）など改善がなされた。また、51災後に自治会の取り組みが進展した。現在でも7月に実施されている防災訓練は49災をきっかけに始まった。
- 当時の自分たちは戦士だった。使命感をもって職務にあたった。自分たちがやらなければ誰がやるという意識。これまで経験していないことばかりで狼狽していたが、役場職員であるという手前、毅然とした態度をとるしかなかった。そのために知識をもつことは重要。災害復旧は発生年度含めて3か年で終わらせないといけなかったため、その後の仕事量も膨大に。49災、さらに51災で業務量が増大した。

Q5 防災訓練などの地域の防災活動への参加の必要性について、被災経験前後で意識が変化したか。

- 49災当時は地域の防災活動はなかったが、その後組織的な取り組みに変わっていった。49災後に被災日のメモリアルデイに避難訓練をするように関係団体に声掛けをした。計画的な取り組みになった。町民も身内を亡くして災害に対する知識も向上し、考え方が変わった。被災後10年程度は地域の輪番制で訓練を行った。本年（令和5年）は池上氏の地域（安田）が担当地区だったが、対象の3分の一世帯しか参加していない。参加人数も世帯に一人程度の参加。高齢者の独居老人も多いので参加したくてもできない方もいる。災害を知らない世代の人もいることが心配。

Q6 自治体や気象庁や国交省からの災害情報に関する関心は被災経験前後で変わったか。

- 49災当時は得られる災害情報は全くなかった。関係各所との情報ネットワークも限られた状況。現場に出向くことでしか情報が得られない状況だった。そのため「避難」といったことも意識に結びつかなかったのではないかと。情報がない反面、川が濁るなどの現象、地面が揺れたり、こすれる音、匂いなどを注視していた。

Q7 築堤や砂防工事といった公共土木工事に対する思いは被災経験前後で変化があったか。

- 51後に山間部の土石流が多かったため、治山事業のために高知営林署の事務所が高松にできた。町長が営林署ひっぱってきた。そのおかげで治山事業がしっかりなされて谷止めがしっかりなされた。建設省で河川改修を行い、その効果を実感している。砂防ダム+谷止めが至る所にできている。
- 町長は山側はリスクが高いため海側に住めるように埋め立てを促進させた。漁業者も災害を経験しており協力してくれた。
- 災害の経験を踏まえて、本省との関係性が近くなった。災害を経て多様な機関との連携の経験もできた。

Q0 話者の経歴



話者 濱口美須榮さん

- 出身地:小豆島内
- 居住履歴:大阪の骨董屋で就業.その後内海町に嫁入り
- 家族構成(当時):義母、夫、子供4人(幼稚園～中学校2年生)
- 被災時の就業:商店経営

Q1 被災経験(本災害以外)

- 昭和51年災害以外に経験はなし。これまで小規模な土砂災害を経験していた程度。当時65歳の義母を被災で失った。

Q2 ご自身がこのような大規模な災害に遭うと思っていたか。

- 本災害は夜中の11時半ごろに被災したが、当時誰もこのような災害に遭うとは想像していなかった。

Q3 被災当時のご近所づきあいの程度

- ご近所は海に関わる仕事であり、普段から助け合いをするのが普通だった。当時近所に声掛けを行った。

Q4 被災当時の防災への備えの程度

- 当時、海での海苔の作業用に様々な資機材を家に用意してあったことが役に立った。他には災害用としては何も準備していなかった。

Q5 防災訓練などの地域の防災活動への参加の必要性について、被災経験前後で意識が変化したか。

- 当時避難の時に何も持っていくことができず、備えておくことの重要性を痛感した。災害発生後、ご主人は支援者を船で送り迎えするなどして地域の復興活動に尽力していた。

Q6 自治体や気象庁や国交省からの災害情報に関する関心は被災経験前後で変わったか。

- 当時は大規模災害になると思っておらず、天気も気にしていなかった。また、得られる情報も元々限られていたと思う。

Q7 築堤や砂防工事といった公共土木工事に対する思いは被災経験前後で変化があったか。

- 災害を経験してからは、施設のことが気になって見に行っていたりしている。確実に意識があがった。

Q8 避難をすることになったきっかけ（タイミング、情報の入手先、情報の内容）

- 消防の方が他地域で土砂が出ていることを知らせてくれた。夫が帰宅したことをきっかけに避難。その時ちょうど土石流が発生。避難途中で動けなくなり、船で移動した。

Q9 情報を入手する中で、問題は無かったか？

- 当時は得られる情報が限られていた。

Q10 避難先の選定理由は？

- ご主人の先導で高いところに逃げた。

Q10 避難を判断するにあたり、どんな情報があれば良かったか？

- 必要なものをリュックに入れて持ち出し、逃げられるように準備しておけばよかった。そのような予防対策に関する情報があればよかった。

Q0 話者の経歴



話者 平尾清子さん

- 出身地: 徳島県
- 居住履歴: 出身地からご結婚のため高松へ居住.
- 家族構成(当時): 夫と2名で居住. 子供2人は独立.
- 被災時の就業: 専業主婦であり, 子どもが小学生のころから地域のボランティア活動を続けていた.

Q1 被災経験 (本災害以外)

- 無し. 本災害以降も無い. 本災害以前には, 平成7年頃に高松市立図書館が浸かったことがあるのを見たことがある. 自宅前の道路が川のようにになっていた.

Q2 ご自身がこのような大規模な災害に遭うと思っていたか。

- 想定していなかった. 元々地盤を高く家を建てていた(播鉢谷川の近くは凹地で低くなっていたため、近隣の両親の自宅に地盤を合わせて建てた)。

Q8 避難をすることになったきっかけ（タイミング、情報の入手先、情報の内容）

- 当時は2階にあがる垂直避難を行った。夜11時頃に水位があがりはじめ、家の裏の空気孔でボコボコと音が聞こえてきて、いつもと違う状況に気づいた。家のモーターが低いところがあったため停電。外に出て浸水に気づいた。水に流れがあるのを見て家財を高いところにあげるなど作業を行った。
- その後、家の中に水が入ってきたため2階にあがった。それまで経験や情報が無く、今後どのようなことになるかと想像もつかなかった。

Q9 情報を入手する中で、問題はなかったか？

- 情報が無く、何をすれば良いかわからなかった。当時はテレビ・ラジオで台風の進路状況しか把握できなかった。

Q10 避難先の選定理由は？

- （外へ）避難するという意識（知識も）は全くなかった。

Q10 避難を判断するにあたり、どんな情報があれば良かったか？

- 誰かが声をかけてくれると避難のきっかけになる。
- 地域ごとの危険性について情報があると判断材料になる。
- この災害では、浸水してくる状況を目で見てはじめて災害に気づいた。身の安全の確保の仕方として「避難がある」ということが知識として当時あればよかった。
- 公的な機関からの避難を促す情報があれば耳を貸すことができたと思う。
- ただ、当時は夜の11時頃であり既に床にはいていた。2階があるから大丈夫と思っていた。